

ユーロクチーナ2022速報レポート

イタリアのミラノで開催されたミラノ・サローネ 2022 を視察してきました。60 回目の区切りであり再出発の年と位置付けられた今回は、予想を上回る約26万2000人の来場者を記録しました。

今年はユーロクチーナというキッチンの展示会も共催されておりましたので速報として最新のキッチントレンドを報告します。



キッチンの電動化

IH調理器や照明だけではなく、引出や特に吊戸棚のフラップ扉の電動化が標準装備されていました。電動化に遅れたキッチンメーカーは今後生き残れないのではないかとこの予感が現実のものとなりました。

ハンドルや取手が無いデザインがトレンドとなっており、それをベースに各社それぞれが素材や色、厚みの違いによりオリジナリティを追い求めているようでした。

「ハンドルフリー & 電動化」がデザインの自由度を生み出すということでしょう。

吊戸

「ハンドルフリー & 電動化」により感度の良い素材を使用できるようになり、吊戸棚についても大型で素材を見せ、感触を確かめることのできるタイプの扉が主流を占めていました。そのデザインを実現するために必要な要素として、ブルム社の4種類のイベントス(HF, HS, HL, HK)がほとんどの場面で使用されておりました。

また、電動式のサーボドライブイベントスにより、さらに個性的に表現する出展者が数多く見られ、ブースではデザインだけでなく顧客に感動を与えていました。まさにお客様のブランド構築のためのイベントスといった感じでした。

引出し

前回と同様に展示していた多くのキッチンメーカーでブルム社引出レールが採用されていました。中でもレグラボックスが引き出しの主流となっており、各出展者がさらに自由な発想を表現することができていました。機能性のみならずデザインの自由度の高まりに対応することによって感動すら呼び起こすブルム社のレールが数多く採用されていました。

この流れは日本でも必ず追随する動きになると思われます。商品構成をピラミッド型にするためにも、レグラボックスをいち早くご検討下さい。

開き扉

ブルモーションが内蔵されたクリップトップブルモーションでキャビネット内部のつっぱりがなくなり、デザインが洗練されていました。更に今回はダークカラーの色使いのヒンジや、ヒンジを使用したユニークなデザインも展示されていました。実力的には世界一のヒンジを使用しながら、ブルム社ではここでもデザインを追求していただけるようになっております。

カウンタートップ

ほとんどの出展者がデザインを表現する場所としてカウンタートップに重きを置いていました。中でもクォーツやマーブルを使った天然石に近い素材が多種多様な雰囲気 연출し、訪問者を飽きさせない展示となっていました。



以上、速報ですが、それぞれにデニカにてお手伝いさせていただきます。